

## 令和2年度 第2回 函館市高齢者計画策定推進委員会 会議概要

### ■ 日 時

令和2年10月12日（月） 18時30分～20時00分

### ■ 場 所

市役所本庁舎8階第2会議室

### ■ 議 事

函館市における高齢者の現状と分析，課題について

### ■ 配付資料

- ・資料1 高齢者数・世帯等の状況
- ・資料2 高齢者の健康と生活の状況
- ・資料3 地域における支え合いの状況
- ・資料4 介護サービスの状況
- ・資料5 各種データから分かることと考えられる課題

### ■ 出席委員（15名）

朝倉委員，池田委員，岩井委員，内山委員，大槻委員，恩村委員，川上委員，  
北村委員，小杉委員，齋藤委員，富樫委員，所委員，能川委員，村岡委員，山田委員

### ■ 傍 聴 1名

### ■ 報道機関 1社

### ■ 事務局職員

保健福祉部

地域包括ケア推進課 小棚木課長，相澤主査，石岡主査，蝦名主事

高 齢 福 祉 課 黒田課長

## ■ 会議録（要旨）

### 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

本日は今期の当委員会の委員として、新たに、函館市医師会副会長の恩村宏樹委員，函館市民生児童委員連合会 高齢者福祉部会長の村岡肇委員に参加いただいていることを報告申し上げます。

それでは、これからの議事は、池田会長に進めていただきたい。

### 池田会長

---

では、資料1と2について事務局から説明願いたい。

### 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

（資料1「高齢者数・世帯等の状況」、資料2「高齢者の健康と生活の状況」に基づき説明）

#### ※説明要旨

- ・ 本市の後期高齢者の数は2030年頃まで増加予測のため、それに伴って介護サービスのニーズは増えることが見込まれる。
- ・ 一方で、生産年齢人口は減少していくため、人材の確保が年々厳しくなることが予測される。
- ・ 単身高齢世帯の割合が北海道や全国と比較して高く、身体状況が落ち込んだ場合に介護サービスにつながりやすいものと推察される。
- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以下、「ニーズ調査」）の結果では、本市の高齢者の身体状況はやや改善傾向にあるが、本市が実施する各種施策のほか、働く高齢者が増えてきていることも関係しているのではないかと考えられる。 など

### 池田会長

---

ただいまの説明に対し、何か質問はあるか。

### 能川委員

---

ニーズ調査の項目の外出についてだが、理由の中に、「外での楽しみがない」や「経済的に出られない」というものがあるが、過去の調査と比較した結果をお聞かせ願いたい。

### 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

前回調査でも、同じ内容で調査はしているが、数字の取り方が違うため、集計結果の補正が必要となることから、後日、回答させていただきたい。

### 富樫委員

---

このニーズ調査の項目は、国や道と同じものなのか、函館市独自の調査なのか。

### 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

国が推奨している調査なので、国の必須項目を網羅している。その他に質問項目の追加が可能となっているため、本市で独自の質問を加えている。

### 小杉委員

---

資料2の3ページの、「非認定者の身体機能等の低下リスクの該当状況」というところで、「うつ傾向」と「転倒リスク」以外では前回調査（平成28年度）と比較して改善されている要因が分かれば、教えていただきたい。

別の調査項目の結果から、働く高齢者が増えたというのも要因の一つではないかとおっしゃったが、市では様々な施策を行っているので、他にも要因があるのか、またそれを検証する方法があるのか、どのように分析してくのかを知りたい。良いことはこちらでも共有していきたい。

### 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

正直、とても難しい質問である。函館市では認知症予防を含め、各種の介護予防事業を実施していることや、生活支援体制整備事業などで高齢者の社会参加や支え合いを推進してきたことなどもリスク低下の要因としては考えられるが、決定的に「この事業がこれだけ（リスク低下の）効果があった」と数値化することは難しい。様々な要素が関係している。例えば、疾病予防や高齢者の就業に関する施策なども考えられる。これらが複合的にはたらいで低下したということではないか。

様々な事業を行っている中でこのような結果になっていることを考えると、今まで行ってきたことは間違いではないのでは、と思う。

### 齋藤委員

---

資料2の6ページの「将来、介護が必要になったときどこで生活したいか」という質問で、この中で非認定者の施設と回答した比率が40.5%、要支援者等で43.4%となっているが、前回の調査と比較し、増えているのか減っているのか教えてほしい。ご本人が施設に入所しても良いと考えるのかを知りたい。

### 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

前回調査では、非認定者の方で「自宅」と回答している方が47.8%、「施設等」と回答している方が34.3%で、要支援者の方で「自宅」と回答している方が40.4%、「施設等」と回答している方は38.2%となっている。よって、今回はどちらの数値も増えているということになる。

### 齋藤委員

---

わかりました。

## 池田会長

---

他に質問はあるか。では、事務局から次の資料の説明をお願いしたい。

## 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

（資料3「地域における支え合いの状況」、資料4「介護保険サービスの状況」、資料5「各種データから分かることと考えられる課題」に基づき説明）

※説明要旨

- ・ 高齢者の中には、家族や親族との交流がほぼ無い方が一定割合存在する。
- ・ 何らかの会やグループに入っていない、一見、無関心とも思われる方々の中にも、地域づくりや多世代交流に前向きな高齢者は一定割合存在することから、このような層に向けた人材の掘り起こしのアプローチも意味はある。
- ・ 本市の要介護認定者数と要介護認定率はここ数年横ばい状態だが、内訳が変化してきており、要介護1以上の方が多くなってきている。
- ・ 資料1～4までから分かることや課題を端的にまとめたのが資料5である。 など

## 池田会長

---

何か質問はあるか。

## 北村委員

---

地域の支え合いというところで、活動に参加したい・参加したくない方の理由は何かを知りたい。そこに解決策があるかもしれない。

## 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

参加したくない理由についてはニーズ調査の本書では掲載している。資料を簡潔なものとするため、本日はこのような見せ方としたことをご了承願いたい。数字は把握しているため、今後に役立てることはできると思う。

## 北村委員

---

わかりました。

## 能川委員

---

資料3の6ページの（12）の高齢者の傾向というのはどんなものがあるのか。

## 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

手元に資料が無いため、追って報告させていただきたい。

## 池田会長

---

他に質問等はあるか。

## 所委員

---

質問ではないが、資料4「介護保険サービスの状況」で、認定者数および認定率の平成27年度末から令和元年度末までの介護度別の推移の中で要介護2と要介護4が1割超増加していることが分かるが、何がどう影響しているのか、今後注視していかなければいけないと思う。要介護認定者数が横ばいという中で、更に上の要介護度に進まないように踏み止まっているとも見える。

## 岩井委員

---

今日の資料は本当によくまとまっていると思う。特に資料5がすばらしい。要は、全国的に人口は減り、若い人も減り、高齢化率は高くなり、単身世帯が多くなる中でどうするかということになる。

資料5に記載しているように、課題の中にある、「介護業務の効率化」や「介護サービス以外でも支え合える仕組みづくり」がどれだけできるかというのが、大切なことになる。その中で「地域のキーパーソンの発掘と地域活動へのマッチング」、「高齢者の就労やボランティアなど社会活動の促進」などをどのように作るかが重要だとわかった。また、資料3にあった「今は活動していないが、活動に参加しても良いという人」を今後どのように巻き込んでいくかがポイントになる。

その中で新型コロナウイルスのために休止している活動などがあるので、今後どのように活動していくのかを注視していく。すごく分かりやすかった。

## 池田会長

---

今、岩井委員が話してくれたように、地域の中でどうやって関わりを作っていくのかというのがすごく難しい。おやじ世代が積極的に参加して地域の行事を引っ張ってってくれればいいのだが、そういう人達も参加できない。そこが函館市の問題点である。

地域の問題について、いろんな会合に出ているが、なかなか妙案が出てこない。高齢化率が高くなっていく中で、参加したくないという人の背中をどうやって押すのかも真剣に考えていかないといけないのだと感じた。

## 川上委員

---

函館市の中にも、在宅介護委員会があり町会関係と別になる。民生委員としては連携が上手いかなことも多い。地域でいろいろお世話をさせていただく立場上、とても難しい部分ではある。

## 山田委員

---

資料を見て、老人クラブがいろいろ関わっていった方が良いという部分が随所に見える。支え合いの中で、老人クラブだから支えてもらうのではなく、自助・共助の両立で老人クラブが中心となって健康づくり活動などをやっていこうと。高齢化率が高くなっていく中で甘えてはいけないと思っているので、よろしくお願ひしたい。

## 村岡委員

---

新型コロナウイルスのため、私は民生委員の活動があまりにも制限されている。この資料は令和元年度のものであるので、令和2年度の資料になるとかなり変わってくるのではないかと。高齢者を呼び出すのも、訪問するのもストップしている。これからコロナが落ち着いてもう一度いかに活動するのかということも大切だと思う。

## 池田会長

---

ウィズコロナとアフターコロナですね。

それでは、次第3の「その他」について、事務局から願います。

## 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

（参考資料「国における今後の介護保険制度の改正の動き」に基づき説明）

これらの内容については、具体的な開始時期などの詳細は不明だが、現状でこのような動きがあることを皆様へ報告させていただいた。

また、次回の委員会の開催時期は、11月下旬を予定している。開催案内については、別途お知らせする。

## 池田会長

---

皆様の活発な意見が出て、良かったと思う。それではこれで終わりとしたい。

## 相澤主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

---

池田会長、ありがとうございました。それでは以上をもって、令和2年度第2回の委員会を終了する。